## 「マーケットの浅読み・と読読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

♦ No.0867

25/11/19

## 【 今年は「政治的激動」の一年、来年も!? 】

早いもので、2025年も残り1ヵ月半を切った。詳細については、後日改めて振り返るつもりだが、今年はともかく「激動」の一年だったと言ってよいだろう。

さて、そんな 2025 年相場の残りから、来年にかけて予想される為替市場の重要な変動要因 2 つ、すなわち「政治」と「金融政策」のうち前者を取り上げて以下で報じてみたい。ただし、当然だが今回のレポートは「第一報」。飽くまでも「速報」といった話になる。来月以降、来年にかけて改めて詳細を報じるつもりだ。

## ◎2026年の米国は「中間選挙」、日本は早い段階で「衆院選」実施か

米国の大統領選は昨年だったが、今年 1 月に「トランプ氏が米大統領として返り咲き。正式に就任」。また 4 月には韓国で「尹大統領(当時)の弾劾訴追」が実施され、大統領が交代した。

さらに、日本では 10 月に「初の女性首相が誕生、高市内閣発足」ーーしたほか、英国やドイツでも首相交代に見舞われるなど、欧州地域などにおいても今年は政治的にもかなり大きな出来事が相次いだことは間違いない。まさに、「政治的激動」の一年だったと言えるだろう。

そして、そんな政治的な激動は、来年に掛けても続く可能性がある。

たとえば米国については、大統領選に次ぐ重要事項の「中間選挙」が実施される見通しだ。ご存じのように、現在の米国は大統領そして上下院とも共和党が多数を占めるという、いわゆる「トリプルレッド」の状態にあるが、来年の米中間選挙を受け「独占状態」が崩れる公算が大きいーーと予想されている。

実際、経済誌「エコノミスト」と調査会社ユーガブが今月実施した世論調査では、中間選挙でいずれの党の候補者に投票するかという問いに対し、民主党候補者が 46%となり、共和党候補者(39%)を 7 ポイント上回る結果となっていた。

もちろん、まだ1年近く先のことであり、決め打ちするには早すぎるほど早いとはいえ油断は禁物か。場合によっては、早い段階から思惑が先行する格好で、為替をはじめとする金融市場においても波乱要因になりかねない気がしている。

それに対して日本はというと、もっとも早ければ来年1月にも、高市内閣が衆院解散・総選挙に打って出る可能性が取り沙汰されている。

維新の会と連立を組んだとはいえ、いまだに「少数与党」という状況は変わらず。高市内閣にとって政策実現に向けた障害のひとつになっている感を否めないが、高市内閣下の衆院解散・総選挙で、そうした「悩み」が多少なりとも解消することになるのかどうか注目だ。また、現在は野党第一党の立憲民主党についても、一部では大敗しその地位を国民民主党などに譲ることになるーーといった分析も聞かれている。日本の政治情勢からも、目が離せそうにないだろう。

一方、先で指摘したように「政治的な激動」がみられた 2025 年においても、中国やロシアといった権威主義国家は大きな変化なし。むしろ、「ある種の安定感」がみられたものの、来年は果たしてどうか。

2026年、中国やロシアでこれといった「選挙」などの動きは予定されていない。

しかし、今年1月には日経新聞が「中国政局に波風」と指摘し、「長く凪続きだった中国政局に波風が目立ち始めた」と報じたことに続き、5月には時事通信が「大物親中派が異例の習主席批判、威信低下を反映か」ーーとレポートし、物議を醸していた。そして10月末、ここにきて習主席に近いとされる最高幹部ら9人が「汚職」を理由に一斉に粛清されるという異常事態も起きている。なにかキナ臭い動き、地殻変動が起こっていることは確かだろう。来年あたり、溜まりに溜まった「ウミ」が一気に噴出することになるのかもしれない。

また、同様のことがロシアについても言える。

世論調査の数字では、プーチン大統領の支持率は侵略開始後も8割と高水準を保ってきたが、侵攻から4年になろうという現在においては長すぎる戦闘に疲弊し、不信感を抱くロシア国民もジワリと多くなってき

たという。そして、そんな情勢と関係があるのか、先日にはロシア政権の重鎮であるラブロフ外相がプーチン大統領の不興を買い、「失脚」したとの報道が取り沙汰され、そここで思惑を呼んだことも記憶に新しいところだ。結局、ラブロフ氏はそののちインド外相との会談を実施したことが明らかとなり、前述した「失脚」観測は単なる噂に過ぎないことが露呈したものの、それでも依然として「健康不安説」などが引き続き取り沙汰されているようだ。来年はヒョッとすると、中露などの権威国家こそ大きなうねりに巻き込まれることになる気もしないではない。(了)

**VAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVAVA** 

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved

